

- 3. 研究開発の前提となる社会環境、ライフスタイルに関わる基礎調査

A Survey on social circumstances and life-styles for R&D

キーワード	研究開発、社会環境、ライフスタイル
Key Words	Research and Development, Social circumstances, Life-styles

1. 調査の目的

研究開発の目標設定は、従来のシーズドリブンアプローチから、社会のニーズを前提に研究開発の目標設定を行うニーズドリブンアプローチ、ロードマップアプローチへと変化することがトレンドとなってきたが、中長期の研究開発の目標設定で要求されるニーズとは現在のニーズではなく将来の時点で要求されるニーズである。

その将来のニーズを的確に予測するためには、その前提となる社会環境、例えば人口動態、就労環境、家庭環境等の外部環境からライフスタイル、精神的な充足環境等の内面的な環境に至る幅広い範囲での予測とシナリオライティングが欠かせない。

本調査ではそのような社会環境変化、ライフスタイル変化に関する各種先行調査・予測等を調査するとともに、そこで抽出される研究開発テーマについて検討を行うことを目的とした。

2. 調査研究成果概要

(1) 調査の構造

本調査研究は大きく次の3つの調査項目により構成されている。

- 2020年～2030年の社会像、ライフスタイルに関わる情報の収集・整理
- 社会環境・ライフスタイルから想定されるニーズ項目の抽出、シナリオの作成
- そのニーズ、シナリオから求められる技術、研究開発テーマの整理

(2) 調査の内容

マクロトレンド等の予測資料の収集にあたっては、以下のような基準をもとに収集・整理を行った。

予測と計画

将来の社会環境、ライフスタイルなどの予測や推計以外にも、望ましい社会環境やライフスタイルに関する計画や目標、ビジョンなども将来のニーズを規定する可能性がある。

属性とアクティビティ

人口動態や気温・気候など、将来の社会の状況の予測（属性予測）の他に、将来の社会の活動状況（アクティビティ）に関する予測がある。本調査では、活動状況は「産業・経済」と「社会・生活」（行政分野と個人・社会生活）に分けて収集している。

予測が対象とする広がり

予測や計画が対象とする広がりを、世界規模、日本全体、地域（都道府県・市町村）・コミュニティ、企業・家庭と分類して収集した。

(3) 主な成果

収集した資料を前述の基準をもとに整理し、抽出したキーワードは以下の通りである。

将来予測・集計

	属性	アクティビティ	
		産業・経済	社会・生活
世界・地球規模・海外 (世界的環境・状況)		GDP、経済成長、アジア経済、米国経済、中国GDP、エネルギー、エネルギー需給、エネルギー価格、エネルギー投資、産業、交通、観光、環境	災害、食糧供給、食料、保険・医療
日本(国家規模)	人口(総人口)、人口(高齢者)、痴呆高齢者、世帯数(総数)、世帯数(高齢者)、温室効果ガス、CO2 排出量	GDP、エネルギー供給、エネルギー需要、貿易、産業構造、エネルギー産業、環境ビジネス、労働力、自動車交通需要、交通手段、建設廃棄物、	災害
地域・コミュニティ	都道府県人口、市町村人口、都県人口	地域経済、九州学研都市	
企業・家庭		建設投資、住宅、燃料電池関連市場、医薬品市場、技術、労働時間	NEET、フリーター、医療費、生活時間・消費、消費、所得と余暇、政治、ライフスタイル、暮らし、社会経済、家族、仕事、住まい方、教育、社会保障

将来計画

	属性	アクティビティ	
		産業・経済	社会・生活
世界・地球規模・海外 (世界的環境・状況)	環境	アジア経済、米国エネルギー、中国エネルギー、エネルギー、技術	保健・医療
日本(国家規模)		エネルギー供給、CO2 排出抑制技術、通信インフラ	
地域・コミュニティ			
企業・家庭		女性就業、技術(ロードマップ)	

収集した資料のうち、将来の社会の属性に関する予測内容、将来の産業・経済活動に関する予測内容、将来の社会活動・生活に関する予測内容等を、予測が対象とする広がり別に整理し、これらの予測内容をもとに抽出した将来のニーズについてまとめた。

さらに抽出されたニーズに対して、想定される研究テーマや研究領域を整理した。